

令和7年度 千葉県における「しろぎす千葉県海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるシロギスの漁業実態

千葉県においてシロギスは東京湾内湾海域、内房海域、銚子・九十九里海域における重要な資源となっており、刺し網漁業や小型機船底びき網などで漁獲されている。一方、近年は漁獲量が減少傾向となっている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近5年間（平成28年から令和2年まで）の平均値（29トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「しろぎす東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は下表のとおりで、1漁協所属の約10名がシロギスを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考
富津	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
刺し網漁業	休漁日の設定	漁協公休日	

協定に記載されている取組

(3) 資源管理の取組状況

本県主要漁協（目標における「県内主要港」と同義）におけるシロギスの漁獲量は 2000 年の 185 トンから減少し、2003 年には 81 トンとなった。その後増加して 2007 年に 137 トンとなったものの 2008 年以降再び減少傾向となっており、2024 年は 12 トンで資源管理の目標において維持するとした平成 28 年（2016 年）から令和 2 年（2020 年）の漁獲量の平均値を下回っている（図）。また、本検証の対象となる協定の参加者が漁場とする東京湾内湾の主要漁協における漁獲量についても、2016 年から 2020 年の漁獲量の平均値（19 トン）を下回っていた。協定参加者による検証（以下、自己点検という。）では、漁獲努力量は維持していると判断されたものの、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は減少と判断されており、現状と一致している。また、魚価（単価）は増加と判断されている。

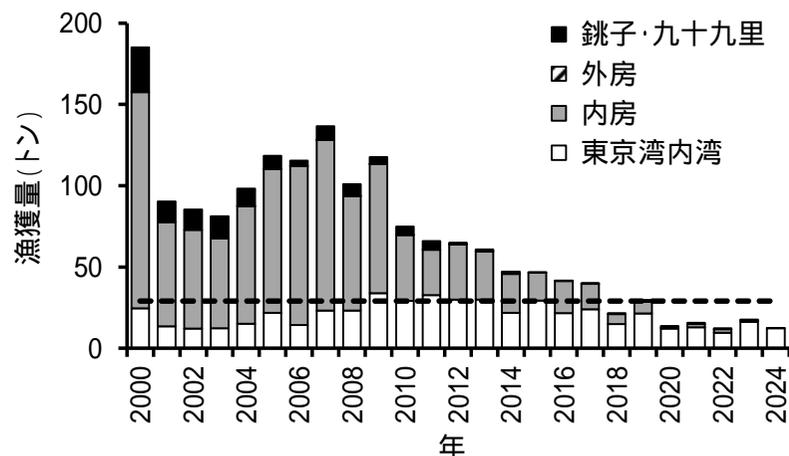


図 本県主要漁協におけるシロギス漁獲量の経年変化（棒グラフ）及び資源管理の目標とした漁獲量（点線）の比較（千葉県調べ）

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

シロギスについては休漁日の設定が実施されているものの、直近年の漁獲量は資源管理の目標を下回っており、自己点検では全協定で漁獲努力量は維持していると判断される中、漁獲量や資源の減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されおらず、効果を感じられない要因は海洋環境による影響（水質の変化等により、本種が増殖できない影響）の可能性があると判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境が漁獲量や資源の減少の要因の 1 つと考えられる。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。